

「福音を信じなさい」

2021年10月08日

ヨハネが捕らえられた後、イエスはガリラヤへ行き、神の福音を宣べ伝えて、「時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて、福音を信じなさい」と言われた。(マルコ福音書1章14節～15節)

洗礼者ヨハネが捕らえられた。捕らえられたのは下記のような事情であった。領主ヘロデは、異母兄の妻ヘロディアに惹かれ、妻とした。荒れ野で、悔い改めの洗礼運動をしていたヨハネは、レビ記18章16節の「あなたの兄弟の妻を犯してならない。それはあなたの兄弟を辱めることである」という律法から、ヘロデに「兄弟の妻をめとることは許されない」と抗議した。領主であるヘロデは、野にある一介の宗教者(ラビ)から抗議されたことに激怒し、ヨハネを投獄した。ヘロデの牢獄は過酷な扱いを受ける獄であったと言われている。ヨハネが捕らえられ、キリストが歩まれる道備えの洗礼運動は終わった。その後、主イエスは故郷ナザレからガリラヤに出て来られ、神の福音を宣べ伝える宣教を始めた。宣教はヨハネから主イエスにバトンタッチされた訳である

この時、主イエスは30歳くらいであった。神の福音宣教の第一声は、「時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信じなさい」であった。まず「時は満ち、神の国は近づいた」という言葉に、時の充満が告げられている。イスラエルの民は時の意味を重視した。コヘレトの言葉3章には、「天の下では、すべてに時機があり、すべての出来事には時がある」と書き始め、「生まれるに時があり、死ぬに時がある」と、人間の営みにはふさわしい時があると書いている。彼らは「時」を大事に捉え、生かそうとしている。

聖書では、太陽や月の動きによって測られる自然な時を「クロノス」と言い、全ての人々が共通に認識する時である。一方、神が直接関わる時を「カイロス」と言った。これは、神が介入する凝縮した時間である。パウロは、コリントニ6章2節で、「なぜなら、『私は恵みの時に、あなたに応え／救いの日に、あなたを助けた』と神は言っておられるからです。今こそ、恵みの時、今こそ、救いの日です」と書いている。この時は、キリストにおいて救いが成就し、神が直接介入した時を述べている。

主イエスが「時は満ち」と言った「時」は、神が関わってくださる時の到来を告げている。だから、「神の国は近づいた」と続けているのである。神の国とは神が生きて支配している現実である。主イエスの福音宣教は、神の真実と愛が実現した時の始まりであった。次に「悔い改めて、福音を信じなさい」と語っている。「悔い改め」とは心の向きを変えることである。神を無視して生きていたことから、神は生きて働いていると回心することである。その回心の方向は「福音を信じる」ことである。主イエスが語る福音とは神からの「是認宣言」である。当時の宗教は、モーセの十戒を中心にした律法の遵守を核とし、律法を守ることによって、神から義とされることを救いと説いていた。従って、律法を守らない者は神から罰を受け、病気や障害を負い「罪人」と烙印され、差別、排除された。主イエスは「罪人を招く」と言われ、差別、排除された人々を訪ね、あなたがたは神から祝福され、生きよと是認されていると言葉と業で示された。主イエスの宣教は、時代の価値観をひっくり返すものであった。どのような命であっても、神は「よし」として受け入れてくださっている。神のこの意志を「神の福音」と言って、捨てられた人々の生を絶対的に是認された。福音は当然、時代の宗教者たちと激しく衝突した。主イエスは、「福音を信じなさい」を第一声にして、宣教活動に向かわれたのである、